

2012年7月11日

白井市長 伊澤史夫さま

北総線の運賃値下げを実現する会 会長 山下兼男

日頃より、市民生活を守ることに心を砕いておられることに敬意を表します。

さて、昨年3月11日の東日本大震災に伴う福島第一原発事故以来、国民の意識は大きく様変わりいたしました。電気料金が総括原価方式という決め方であることに大きな疑問が出され、政府機関(消費者委員会、消費者庁公共料金に関する研究会)でも見直しを求める方向で動いています。(2月28日に出された消費者委員会の「公共料金に関する建議」を添付しました。)

ところで、鉄道料金の決め方も電気料金と同様、「総括原価方式」を採用しております。北総鉄道の場合H10年に最後の値上げ申請されて以来、今日まで料金妥当性の再評価はされておられません。経営環境が大きく好転していることに鑑み、H27年度以降「公費負担なしでさらなる値下げを目指す(市長の公約)」条件は整ってきているものと考えています。また、印西市長選挙の結果も値下げ運動に弾みをつけるものと思っています。

ところで、今年になってから私ども北実会が沿線住民(白井市中心)からいただいた「北総線運賃問題についてのご意見」によりますと、「高運賃を何とかして欲しい」という声は当然ですが、さらに次のような要望が出されております。

- 1、昼間割引回数券の利用時間拡大(9~17時)
- 2、北総特急の増発を
- 3、アクセス特急・各駅停車相互の乗り換えがスムーズなダイヤに改善してほしい
(別途、詳細データを準備中ですので後日お届けします)
- 4、割引回数券を駅の近くで扱えないか

白井市は北総の株主ですので、その立場から市民の要望を持って、北総鉄道と交渉されるようお願いするものです。

なお、「4」は市の独自判断で実施可能なことですので、実現の方向でご検討いただけますようお願いいたします。

以上